

2018年3月 (No.345)

主な内容とページ

世界の半導体貿易、増大する中国リスク	1
中国の半導体貿易赤字、2,000 億ドルに迫る	4
中国、半導体輸入元、台湾がトップ次いで韓国	5
中国、香港の相互および内部貿易	6
半導体輸出、中国-香港が世界の 3 割強	7
日本、成長から離脱	8
パナソニックの中国家電事業、利益確保し売上倍増ねらう	9
明治 150 年、維新再び(SRL だより)	10

世界の半導体貿易、増大する中国リスク

半導体は、世界的に活発な取引が行われ、最もグローバル化が進んだ分野。しかし、リスク要因も増大している。

1. 半導体の貿易額で中国の存在が極めて高まり、かつ輸出入の不均衡では、異常な水準に達しつつある。
2. 半導体に限らず、世界的に経済面の不均衡が政治問題化。半導体がこれらの問題に絡み、影響が波及することが懸念される。
3. わが国の半導体貿易は、伸びている韓国、台湾、中国などに比べれば停滞気味だが、底堅さがみられ、世界的には一定の存在を維持している。

明治 150 年、維新再び

今年(2018年)は明治元年(1868年)から満 150 年に当たる。その前の江戸時代は 265 年間とされ、時代の流れを捉えることは限りあるが、江戸時代の後半にわが国 GDP が増加したという指摘は印象に残る。戦争がなく、世の中が落ち着き人々の生活が安定、それが豊かな時代をもたらしたと思う。

明治から大正そして昭和は、激動の時代で、日清および日露戦争に勝利したが、太平洋戦争で負けた。その後の復興は速く、東洋の奇跡といわれ一時は米国に次いで世界第二の経済大国となったが、ここ 20 年は、停滞、新たな時代を切り開くのに苦闘しているのが現在ではないだろうか。

いっそのこと明治維新の時代の前後に戻ったつもりで再度、わが国の現状、大きく変化する世界のなかでいかに針路を決め、それを具体化させるか、取り組んだらどうだろうか。遅れを取り戻すため高額な資金で海外の人材や設備を導入、志ある日本人を海外で学ばせ、世界の中で日本の位置づけ、役割を再定義する。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL(半導体総合研究所)ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL(半導体総合研究所)の解釈と分析で表現したものです。

2018 年 著作権所有 SRL(半導体総合研究所)

SRL Monthly Report

2018 年 3 月(毎月 1 回発行)第 29 巻 3 号(通巻 345 号)

発行元:株式会社 SRL

〒188-0014 東京都 西東京市 芝久保町 3-1-35

TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023

編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

March 2018, No.345

Semicon Research Ltd.

3-1-35 Shibakubocho Nishitokyo-City, Tokyo Japan

188-0014 Mail: info@semiconresearch.co.jp

Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2018

購読料金1年分(12号)98,000円(税別)